

[江別市] 施策達成度報告書

政策 06 市民協働によるまちづくり

施策 03 国内・国際交流の推進

主管課 秘書課

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (23年度)	施策の課題 (23年度)
市内小学校の英語教育が必修化され、学校・教育委員会・ALTなどで組織する「江別市小学校英語指導連絡協議会」などを通じて、良い点や改善点などを十分精査し、今後の新たな英語教育に反映させるための対応が行われるところである。	1) 地域の国際化 国際感覚を持った市民を育成し、外国の生活や文化を理解することで、日本人と外国人の双方が安心して快適な暮らしができる地域社会を築く。 2) 人材育成 外国人とコミュニケーションを図る力や国際感覚を身に付け、日本の発展や国際社会に貢献できるような人材の育成を図る。 3) 異文化理解の推進 国内・国外の異なる歴史や文化などを知ったり、そこで暮らす人たちと接する機会を設けることで、視野を広げるとともに、地域の現状や課題について見識を深める。

施策の目的

友好都市などとの交流により、国内の郷土や歴史の違いの相互理解を進めるとともに、姉妹都市や市内在住の外国人などとの交流により、外国との文化、言葉の違いを理解し、誰もが快適に暮らせる地域を目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、市内居住外国人

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

外国の文化や習慣を理解するとともに、コミュニケーションを図ることができるようにして、外国人とともに快適な生活を送ることができる。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
外国のことを理解し、お互いの歴史や風土を尊重して交流できる市民割合	%	16.9	18.9	-	16.1	↗
土佐市やグresham市が友好姉妹都市であると知っている市民割合	%	-	83.6	-	73.0	↗

施策の達成状況 (23年度)

平成23年度の市民アンケート結果においては、平成21年度の成果指標に比べ、パーセンテージは下がっているものの、市内全小学校での英語教育の導入、小中学生による友好都市(土佐市)や中高生による姉妹都市(グresham市)への相互派遣交流を着実に進めているところであり、延べ派遣回数や人数を増やすことで、さらに実績を積み重ねながら施策を展開している。この結果、事業にかかわる学校や保護者などを中心に友好都市および姉妹都市への認識も高まりつつあり、市民への国内・国際文化の交流やPRが浸透しているところである。

施策事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	25,638	25,400	31,471
事業費(千円)	10,243	10,070	15,122
人件費(千円)	15,395	15,330	16,349

01 人材・団体の育成

基本事業の目的

国際感覚を持ち、外国人と良好なコミュニケーションが図れる人材や団体を育成します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、市内通勤通学者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

外国人とコミュニケーションを図る力を身につける。国際交流や国際理解を推進する担い手が増える。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
外国人とコミュニケーションが出来る人の割合	%	10.2	12.1	-	10.3	↗
国際交流団体の登録者数	人	317	334	294	296	370

基本事業の達成状況 (23年度)

外国人とコミュニケーションを図ることができる人の割合は、市民アンケートの結果、H21年度数値よりも減少傾向にあるが、全市内小学校での英語教育が開始されたことや、国際センターでの語学教室及び国際交流イベントなどの参加人数は、前年度数値と比較して増加しているところであり、外国人とのコミュニケーションが地道に浸透されているものとする。また、国際交流団体の登録者数は変化はないものの、登録者数については、対前年で若干の増加傾向にある。

基本事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	3,195	3,182	5,191
事業費(千円)	1,986	1,978	3,896
人件費(千円)	1,209	1,204	1,295

02 在住外国人への情報提供の充実

基本事業の目的

言葉や生活習慣の違いによる支障やトラブル、不安を解消し、誰もが安心して暮らせる街にします。

対象 (誰を対象とした指標か)

外国人

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

外国人が安心して住めるようになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
外国語による情報媒体提供件数	件	17	7	16	18	20
外国人相談によって問題が解決した割合	%	100	100	100	100	100

基本事業の達成状況 (23年度)

市のホームページや市民課の窓口でのパンフレット配布などを通じて、英語と中国語による生活情報や行政情報の提供を行ってきたほか、外国人からの相談対応を行うことで、外国人がトラブルなく過ごすことができるよう努めてきた。平成23年度は、東日本大震災による市内外の外国人からの問い合わせもあり、震災や原発などへの不安に対する解決に情報の発信を行い、今後もきめ細やかな対応を進めていく。(ホームページ関連13件、パンフレット関連2件、eメール問い合わせ3件)

基本事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	8,455	8,448	8,484
事業費(千円)	4,828	4,836	4,842
人件費(千円)	3,627	3,612	3,642

基本事業の目的

様々な国や人、地域と触れ合い、相互の文化や歴史を理解する人材を育成します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、市内通勤通学者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

交流の機会等を通して、多くの市民が多様な文化を理解するようになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
友好都市との交流者数	人	1,752	1,397	1,871	1,822	1,800
世界市民の集いなど交流イベントの参加者数	人	813	864	713	813	880
社会人向け外国語講座の参加者数	人	225	250	239	257	270

基本事業の達成状況 (23年度)

小中学生による友好都市(土佐市)及び中高校生の姉妹都市(グレシャム市)との相互派遣、国際センターでの語学教室やイベントなどを通じ、市民が異文化の歴史や文化、言語などに触れる機会を持てるよう努めている。また、交流イベントの参加者については、市内外の外国人や市民の積極的な参加により、前年を大きく上回ることができた。さらに、外国語講座の受講者についても、英会話教室の参加者が増えたことにより、結果として、若干の増加となったところである。なお、平成23年度までの実績における土佐市との小中学生の相互交流数は769名、中高校生のグレシャム市との交流は298名である。

基本事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	13,988	13,770	17,796
事業費(千円)	3,429	3,256	6,384
人件費(千円)	10,559	10,514	11,412